2017年4月入職

あさくらさやか
朝倉早也佳

どんなアドバイスも、真摯に受け入れるように

プライドを守るよりも、成長する方が大切

私は誰かに何かを言われたときに、ムッとすることがあまりありません。スポーツに打ち込んでいた学生時代の頃も、監督からの注意を謙虚に受け止めていました。なぜなら、アドバイスを取り入れれば、自分の成長につながるからです。仕事においても、そのスタンスは変わりません。上司や同僚から「こうした方がいいよ」と言われたなら、その指摘に疑問を感じたとしても、言い返すのではなくて、まずは真摯に受け入れています。患者さまにできるだけ辛い思いをさせないためにも、その指摘によって穿刺が上手くなるならば、自分のプライドを守るより、上達する方を優先させるべきだと思うのです。

仕事を始めて３年が経ちますが、自分にとって天職なのかどうかはまだ分かりません。ただ、ある患者さまから「この仕事をずっと続けた方がいい」と言われたことは今も心に残っています。次にお会いしたときに理由を聞こうと思っていたのですが、その前に亡くなられてしまいました。なぜあの方は私にあの言葉をかけてくれたのだろうと、仕事に悩んでいるときによく自問自答しています。できるだけ辛い思いをしていただきたくないという気持ちが伝わったのかもしれないと分析していますが、それが答えであるかどうかは分かりません。でも、答えが分からないからこそ、私にはこの仕事を続ける意義があるのだと思っています。

思いやり行動についての、周囲の認識を変えていきたい

私はこの春から、新しい施設にオープニングスタッフとして関わることになります。新しいスタッフと一から関係性を築いていくことに少しの不安を感じる一方、自分が今までやってきたことがどれだけ通用するのかワクワクしています。穿刺の技術もそうですし、思いやり行動もそう。これまで培ってきたことを存分に活かしながら、自分のことを全く知らない新規の患者さまの心を掴みたいと思っています。

私にはもう１つ、思いやりエキスパートを普及させていくという目標があります。他のスタッフと接する中で、「思いやり行動はもうできているから、研修は受けなくてもいい」という声を聞くことは少なくありません。その意見も理解できますが、今の私は間違いなく、思いやりエキスパートの研修は受けた方がいいと断言します。自分の行動を見直す良い機会になりますし、何より意識がガラリと変わるからです。思いやりエキスパートという制度をより普及させていくために、思いやり行動について周囲が持っているような認識を、もっと変えていきたいと思っています。

どんな時でも全ての人に
思いやり行動を実践します

朝倉 早也佳